

前回検討会での指摘と対応

内閣府（防災担当）・気象庁

日本海溝・千島海溝沿いの後発地震への注意を促す情報発信に関する検討会（第2回）
令和4年8月26日（金）

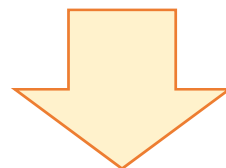
第1回検討会での主な意見

項目	意見の概要
情報名称	○今回の情報発信の対象としては、M 9クラスの巨大地震が想定される領域で発生する地震としており、<u>日本海溝については、北部のみを想定震源域としていることを踏まえ、名称を付ける際にも留意すべき。</u> ○事前避難を求める南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）とは、<u>とるべき防災対応が明らかに異なるので、混同しないようにすべき。</u> ○<u>「後発地震」への注意を促すということが分かる名称にすべき。</u> ○名称が長いのではないか。
よびかけ内容	○今回の情報は、M 9クラスの巨大地震が想定される領域（北海道から岩手県沖）で発生する地震への注意をよびかけるものであるが、<u>M 8クラスの地震であれば、この領域から除外されている宮城県沖や福島県沖においても発生する可能性があることを踏まえ、誤解が生じないように情報発信での表現を工夫すべき。</u> ○よびかけ案は、あるパターンを想定しておけば対応できるほど単純ではなく、<u>様々なケースがあり得ることをしっかりと理解してもらうことも重要。</u>
防災対応の例示	○<u>津波に対する備え以外にも、揺れによる倒壊や土砂災害への備えなども必要。</u>防災対応については、住民一人ひとりの判断という考え方もあるが、<u>基本の対応について例示することも重要。</u> ○情報を出す際には、すでに起こった地震による被害が発生しているので、救助活動等の観点も考慮して防災対応の例示等を示すべき。
情報発信による影響	○<u>過度な対応を控えてもらうためのよびかけが、逆にそのような対応を助長しかねないことも考慮して、国としての対応を検討すべき。</u>
情報発信の位置付け	○今回の情報を発表した場合に、実際にM 8クラス以上の後発の地震が起こる可能性は1/100程度であり、空振りも想定されるものであるので、<u>地震が起こらなかった場合でも、住民一人ひとりの訓練や防災意識の向上につながるようにすることが重要。</u>

後発地震への注意を促す情報発信時の防災対応の考え方

- 平成23年の東日本大震災の教訓や日本海溝・千島海溝沿いの地震の特徴を踏まえると、後発地震への注意を促す情報の導入が必要
- 一方で、日本海溝・千島海溝沿いでは、南海トラフ沿いにおける「半割れケース」の事例は確認されておらず、大きな後発地震が発生する可能性は、世界的な事例を踏まえても100回に1回程度（※）であり、必ず発生するものではないことに留意すべき

※世界中の地震事例（1904年～2017年）から計算。Mw7.0以上の地震発生後、500km以内の範囲でMw7.8以上の地震が7日以内に続発した割合



情報発信時の防災対応の基本的な考え方

- 先発の地震も含め、突発的に地震が発生した場合を想定し、**平時から地震への備え（事前防災対策）を徹底**する。その上で、後発地震への注意を促す情報発信時には地震への備えを**再確認**する。
- 後発地震への注意を促す情報発信時は、**社会経済活動を継続**した上で必要な対策を取るものとし、国や自治体からは、**事前避難等はよびかけず、地震発生後1週間、揺れを感じたら直ちに避難するための準備**等を徹底する。
（南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）と同様の対応）

名称について

前回検討会での指摘事項

- 今回の情報発信の対象としては、M 9クラスの巨大地震を想定しており、日本海溝については北部のみを想定震源域と設定するのであれば、名称を付ける際にも留意すべき。
- 事前避難を求める南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）とは、とるべき防災対応が明らかに異なるので、混同しないようにすべき。
- 「後発地震」への注意を促すということが分かる名称にすべき。
- 名称が長いのではないか。

名称を検討する際の留意点

- ① 対象とする地震の発生エリアを明確にする
- ② 「後発地震」が対象であることを明確にしつつ、「巨大」を強調しない
- ③ 名称をできるかぎり短く、簡潔にする
- ④ 防災対応の異なる「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」と混同しないようにする
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）と求める防災対応が同じであることも留意すべき

名称案と留意点への配慮

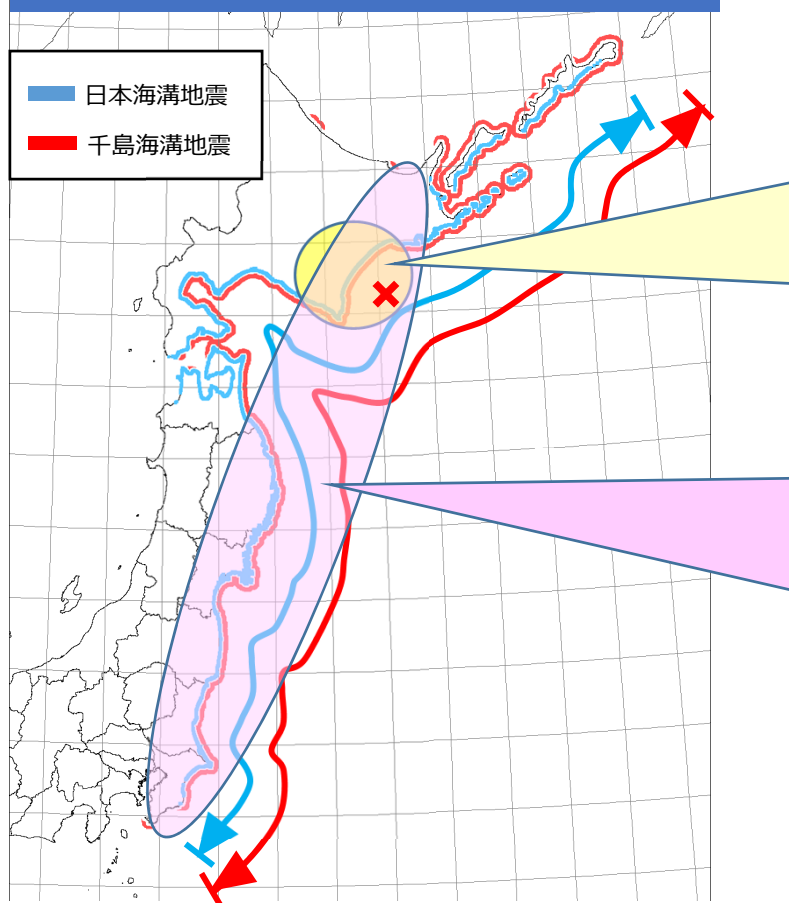
	名称案	留意点①	留意点②	留意点③	留意点④	評価
1	後発地震注意情報（北海道・三陸沖）	○	○	○	○	○
2	後発巨大地震注意情報（北海道・三陸沖）	○	△	△	○	△
3	後発地震注意情報（北海道太平洋側・三陸沖）	○	○	△	○	○
4	北海道・三陸沖地震臨時情報（後発地震注意）	○	○	△	○	○
5	日本海溝・千島海溝地震臨時情報（巨大地震注意）	△	×	×	×	×

気象庁における従来の地震活動の見通しについてのよびかけとの違い

- 気象庁では、地震調査研究推進本部地震調査委員会がとりまとめた「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書（平成28年8月）に基づき、顕著な地震発生後の地震活動の見通しについて、記者会見等により、よびかけている。
- 従来の「大地震後の地震活動の見通しについてのよびかけ」と「後発地震への注意を促す情報発信におけるよびかけ」が混同しないよう、解説が必要。

よびかけ内容の違い（イメージ）

【十勝沖でMw7.0以上の先発地震が発生した場合】



大地震後の地震活動の見通し

【目的】 揺れの強かった地域で引き続き発生する地震への注意のよびかけ

【よびかけ対象エリア】 基本的に揺れの強かった地域

【よびかけイメージ】

- ・過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度●程度の地震に注意してください
- ・特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。

後発地震への注意を促す情報発信

【目的】 巨大地震の想定震源域で発生する後発の大規模地震に伴う揺れや津波への注意のよびかけ

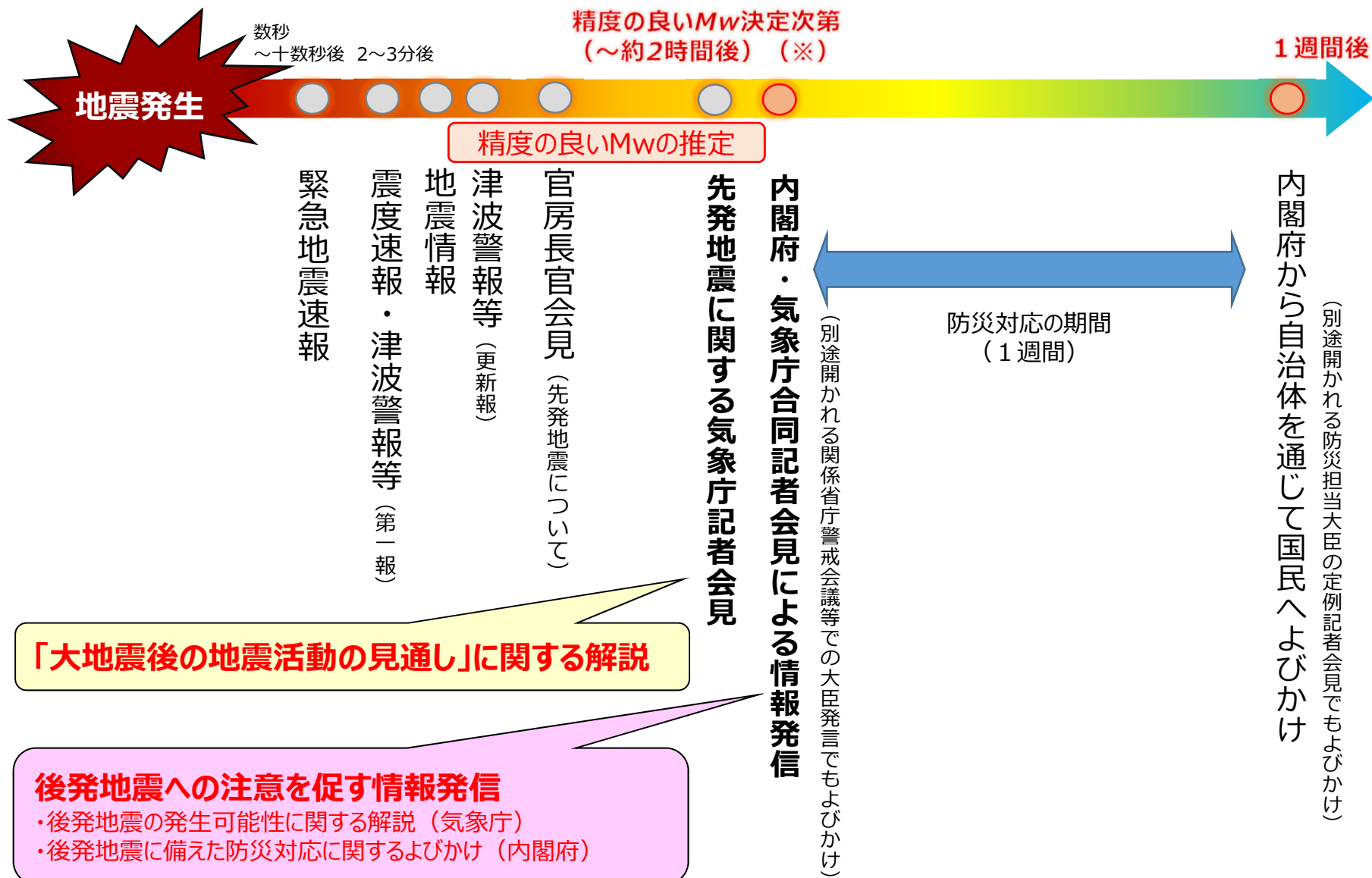
【よびかけ対象エリア】 後発地震により高い津波と大きな揺れが想定される地域

【よびかけイメージ】

- ・この地震に伴い、北海道から岩手県の太平洋沿岸沖において、大規模地震が発生する可能性が平常時に比べて相対的に高まっています。
- ・北海道から千葉県の太平洋側にお住まいの方は、今後1週間、「揺れを感じた場合に、ただちに避難できる体制の準備」を行ってください。

後発地震への注意を促す情報発信の流れ（各よびかけのタイミング）

【発生した地震による震度・津波が大きい場合】



（※）「先発地震に関する気象庁記者会見」の開催タイミングを考慮しつつ、可能な限り速やかな情報発信に努める。

情報発信に伴うよびかけ①

【後発地震の発生可能性に関する解説（気象庁）】

赤字：指摘事項や留意事項
への対応箇所

○ 本日（〇〇日）〇〇時〇〇頃に、〇〇〇〇を震源とするモーメントマグニチュード（Mw）●. ●の地震が発生しました。

先発地震の気象庁会見における「大地震後の地震活動の見通し」に関する解説の有無によって、以下の通り説明を追加

【解説があった場合】

この地震により揺れが強かった地域に対しては、今後 1 週間程度、最大震度 ● 程度の地震に注意するようよびかけを行ったところですが、

【解説がなかった場合】

この地震が発生した周辺では、引き続き大きな地震が発生する可能性があります、

○ この地震の震源や規模を算出し、後発地震の発生可能性について評価したところ、北海道から岩手県の太平洋沿岸沖においても、大規模地震が発生する可能性が平時よりも高まっていると評価されたことから、「●●情報（●●）」をお知らせしました。

この情報は、後発地震の発生可能性が平時よりも高まっていることをお知らせするものであり、地震の規模・発生場所・発生時刻を特定して予測する情報ではありません。

Mw7.0以上の地震の発生後にMw8.0以上の地震が発生する確率は、世界中の約百年間の地震事例で見ると、百回に1回程度であると言われており、最大クラスの地震が発生する確率はさらに低くなります。

過去には2011年の東北地方太平洋沖地震でMw7.3の地震発生後 2 日後にMw9.0の巨大地震が発生し、1963年には択捉島南東沖においてMw7.0の地震発生後18時間後にMw8.5の地震が発生しております。

○ **M9クラスの巨大地震**が発生した場合、太平洋沿岸の広い範囲で高い津波が発生すると想定されており、特に**北海道から千葉県を中心とする太平洋沿岸域においては、巨大な津波が発生する可能性があります**。また、最大で震度 6 弱以上の強い揺れとなる地域も想定されます。

情報発信に伴うよびかけ（合同記者会見の内容イメージ）②

【後発地震に備えた防災対応に関する基本的なよびかけ（内閣府）】

赤字：指摘事項や留意事項
への対応箇所

○巨大な津波が発生した場合には、命を守るため1分1秒でも早く避難を開始することが重要です。

○北海道から千葉県の太平洋側にお住いの方は、

- ・家具の固定や安全な避難場所・避難経路の確認などの「日頃からの地震への備え」の再確認に加え、
- ・特に今後1週間、すぐに逃げられる服装での就寝や非常持出品の常時携帯など、「揺れを感じた場合に、ただちに避難できる体制」をとってください。

毎回同じ表現となると、回数を重ねるごとに形式化し、情報の印象が弱まる可能性あり
⇒震度分布や津波警報の発表状況等に応じて、基本の防災対応をよびかける。

すでに発生した地震により、被害が発生している地域では、救助活動等を優先しつつ、後発の地震にも注意して行動してください。

津波警報が発表されている地域では、引き続き、津波警報が解除されるまで安全な場所に避難してください。
津波警報が解除された際には、後発の地震に備え、再度、迅速に避難できる体制を準備してください。

震度5強以上の揺れが観測された地域では、一部損壊した建物や土砂災害の可能性が平時よりも高まっている場所があると思われます。建物や崖等の状況を確認、危険な場所にはできるだけ近づかないようにしてください。

○詳細な対応については、各自治体からのよびかけに従ってください。

○なお、経済的・社会的混乱を最小限に抑えるため、食料や生活必需品の買いだめ、買い急ぎはお控えください。

○今後の地震情報に注意しつつ、日常生活を継続してください。

【指摘事項】
よびかけを行うことで、逆にそのような対応を助長しかねない
→ よびかけは控えるべきか

- ガイドラインに様々なケースが想定されることを示すとともに、参考として基本となるケースの「よびかけ例」を記載。（マニュアルではないことに留意）
- 各自治体において、ガイドラインを参考に、被害状況に応じたよびかけを実施。

防災対応の例示

後発地震への注意を促す情報発信に伴い、とるべき防災対応の例示を整理
(津波からの避難だけでなく、地震の揺れや土砂災害等のリスクも想定)

【地震時に迅速な避難が必要な場合】
**揺れを感じたら
直ぐに避難できる体制の準備**

すぐに避難できる体制での就寝

- ✓ すぐに避難できる服装（外着・防寒着の着用）
- ✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝
- ✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用



非常持出品の常時携帯

- ✓ 準備しておいた非常持出品を
日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く
- ✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯
- ✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く



【地震によるリスクの高い場所がある場合】
**想定されるリスクからの
身の安全の確保**

揺れによる倒壊への備え

- ✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすい
ブロック塀等にはできるだけ近づかない



土砂災害等への注意

- ✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が
高まっている場所にはできるだけ近づかない
- ✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋
での就寝を控える



**後発地震に注意し、
誰もが実施すべき備え**

緊急情報の取得体制の確保

- ✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末
の音量を平時よりも上げておく
- ✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日頃
生活する空間に配置



日頃からの備えの再確認

- ✓ 水や食料等の備蓄の再確認
- ✓ 避難場所・避難経路等の再確認
- ✓ 家族との連絡手段の再確認
- ✓ 家具の固定の再確認
- ✓ 自治会単位での訓練等での再確認 等

